

ら、議會政治の形式を公然と自ら廢棄することに多大の困難の伴ふことを明確に意識してゐる。ところが、その彼等に俄然、絶好の口實を與へたのがファッショだ。

(ト)先には安達謙三の一派が、いち早く舉國一致協力内閣樹立の必要を主張し(多年所謂政黨政治家として終始して來た彼が、言ひ換れば、最も忠實なるブルジョアジエの番頭である彼が、それを主張したことに重大な意味がある)更に今や齋藤内閣が一部のブル政治家共の『憲政擁護の叫び』なるものを尻目にかけて、成立した事實は、何を物語つてゐるか？

この事實こそ金融ブルジョアジエ共が、彼等の封建的專制支配を確立するために、如何に巧にファシズムを利用するかの、最も明確なる現實の證左ではないか！

(チ)此の事實を考へ合せるときファッショ共が自ら聲を大にして『金融資本に對する反對派』であることを強調しようとも、否、彼等が如何に『金融資本の番犬』以外表者共をやつけようとも、結局『金融資本の番犬』以外の何物でもあり得ないことは極めて明白である。

(リ)勿論、小市民に多大の不平・不滿の在る限りファッショ

であつて、金融ブルジョアジエに對しては何等の致命傷を與へないであらうと云ふことが豫測されるからだ。

この事は既にイタリーの經驗を通じて試験済みのことだ。我が國の一切のグラ幹共は、『我々は小市民層や農民層と提携する必要がある』と云ふやうなことを主張することに依つてファッショの旗下へはせ参じやうとする彼等の行動を合理化してゐるが、我々は斷じて彼等の奸言に欺瞞されるはならない。小市民や農民はプロレタリアートの旗の下へ結集される時のみ、**彼等**がたり得るのであつて、小市民や農民と手を携へて、ファッショの旗の下へ参集するが如きは、斷じて、労働者、農民に對する裏切である。飽くまで、ファッショと抗争することに依つて小市民や農民を我々の陣營に牽連することこそが、**プロレタリアート**に課せられたる任務である。

D 無産諸政黨はどうなる？

(イ)ブルジョアジエの左右翼結成の陰謀とファッショの控頭とに依つて、現在無産階級陣營の内部に大動搖の生じてゐることは既にふいひ難い事實だ。

と金融ブルジョアジエとの間に或る種の抗争が今後も相當永く續くであらうことは當然豫測される。ことに我が國に於ては、ブルジョア共はこの政權確立の過程に於て徹底的なブルジョア、デモクラシー制度を確立せず、ために多くの封建的遺制がその儘残存せしめられてゐるので(其處に日本のブルジョア共の強味があつたのだが)一旦ファッショ運動が據頭するや否や、それが彼等(ブルジョアジエ)の欲する限度をはるかに越へるであらうことが考へられる。だがそうした場合でも、ファッショの持つ『金融資本の番犬的』役割には毫も變りはない。

(ヌ)例へば、今後ファッショ運動が愈々猛烈化し、遂に現在の既成ブル政治家共を擊破し、ファッショ政府を樹立したとしても、その場合でも結局彼等は『金融資本の番犬』の役割をつとめるに過ぎない。何となれば、彼等は本來何等の獨立のイデオロギーを持たず、飽くまでも、ブルジョアの獨立のイデオロギー(特に私有財産並に國民主義)の上に立脚して運動を遂行してゐるのであるから、よしんば、彼等の政府が如何に口先で反資本主義を強調しようとも、結局プロレタリアートに對する強壓を最も重要な役割とするだけ

(ハ) **粉砕**の態度を持してゐるが、最近では、その**中**からさへ、二三の真切者が出た。先には門屋、南等の解黨派が生れ、極く近くは、中村義明、前野善四郎の如き下劣漢さへ生まれた。しかし現在**は**明かである。

(ハ)社會民衆黨がファッショ問題を契機に眞二つに分裂したことは、周知の通りだ、彼等の一部は飽くまで金融資本の番犬として進むことを欲し(松駒、濱國、等々労働クラブ一派)他の一部はファッショの出前持たらんことを欲して、ついに彼等の黨を飛び出し、最近、日本國民社會黨なる政黨を結成するに至つた。(赤松、小池、等の一派)

(ニ)全國労働大衆黨も今やまさに分裂の直前に在る、この黨も亦社民黨の分裂と同一の理由で分裂せんとしてゐるのである。

(ホ)今やファッショ派と社會民主主義派(社會ファッショ派)とは各自その戦線を統一するために努力してゐる、やがて我國の無産諸政黨は總ての人々が豫測してゐる通り左の如く分裂、整理されるに至るであらう。